

# 日風堂

〈高知県立歴史民俗資料館だより・おこうふうじつ〉

第63号 2008年3月20日

**資料見聞 鯉節なまがしのポスター**  
 レトロにして新鮮なこのポスターは、須崎市で鯉節の納屋なや（製造工場）を運営していた故小松益喜さんの鯉節関係資料の一点です。  
 「お出かけですか?」「はい。お世話になった方にお届け物がございまして。」…そんな会話が聞こえてきそうな女性の絵です。彼女が手に持つ風呂敷包みには鯉節が入っているのだろう、



と見る人に想像させます。背景には鯉の一本釣りも描かれ、さらに鯉節の栄養分析表が付いています。  
 左下にみえる「全国鯉節業組合連合会」は、宮下章著『鯉節（上巻）』によると全国の鯉節卸売・小売業者が昭和十四年（一九三九）に結成した組織で、昭和十九年には株式会社になっていきます。そのため、このポスターはその間に作られたものと考えられます。

同会は、鯉節業者の初の全国組織とはいえ、当時の国策であった価格統制に対応した組織でした。ポスターは明るい色調ですが、その背後には鯉節業者達の戦時下の苦難がありました。  
 小松益喜さんは、この他にも鯉節造りの道具や写真など沢山の資料を遺しています。それらは、明治末から昭和初期にかけての土佐の鯉節造りの姿を私たちに教えてくれます。（中村）

鯉節のポスター

## 企画展

# 「鯉 ―カツオと土佐人―」のご案内

学芸専門員 中村淳子・野本亮・梅野光興  
平成20年4月12日(土)～6月8日(日)

昨年、全国約一万人の旅行者にリクルートが実施した調査で、高知県は「おいしい食べ物が多かった」の部の第一位に選ばれました。高知県のおいしい食べ物には、カツオのたたきを挙げられる人が多かったということです。

全国的に評価されているこうした土佐の食文化も、土佐人とカツオの長い付き合いの歴史の中で育まれたものです。今回の企画展では、カツオをめぐる土佐の歴史をはじめ、一本釣りやカツオ節の技など、土佐のカツオ文化を多面的にご紹介します。

展示は、「旅するカツオ」「カツオをとる」「カツオ節をつくる」「カツオをめぐる土佐の歴史」「カツオ文化」の五つのコーナーに分かれています。左頁には、その中から展示品の一部をご紹介します。

さて、導入部の「旅するカツオ」は、カツオの生魚のコーナーです。カツオはお腹の縞模様が目印ですが、陸にあがったカツオと泳ぐカツオの縞の違いは？ 葛西臨海水族園（東京都）の「泳ぐカツオの映像」を展示します

で、会場で確かめてみてください。

### 一本釣り漁の絵馬を読む

「カツオをとる」のコーナーでは、一本釣りをはじめ、カツオのとり方について展示します。

カツオは群（ナブラ）を作って黒潮を回遊する魚です。一本釣りは、広大な太平洋で魚群を探し、発見すると急行し、大量のカツオを釣り上げる豪快な漁です。そのため、二〇人など集団で乗り込み、短時間で集中的にカツオを釣れる体制をとりました。

カツオ漁が盛んだった村には、和船時代の一本釣り漁を描いた絵馬や絵画が遺されています。今では動力をもち近代的な船となり、櫓を漕ぎ、帆を立てて走る和船時代を知る漁師さんも少なくなりました。しかしながらこれらの絵画資料を見ることで、当時の漁具や漁師の服装、漁法などを知ることができます。展示では、いくつかの絵画資料を紹介します。

また、このコーナーでは、さまざまな時代のカツオ船模型や漁具、カラフルな大漁旗や幟、現代の一本釣り漁の



カツオ活け造り 中土佐町提供  
中土佐町上ノ加江の市場に水揚げされた下りカツオ



カツオの一本釣り写真 多田信氏撮影  
展示では、漁労長、植杉豊氏が率いる源漁丸の出港から水揚げまでを多田信氏の写真で紹介。

写真などを展示して、カツオ漁師の技と意気に迫ります。

### カツオ節の今昔

「カツオ節をつくる」のコーナーでは、土佐のカツオ節造りの今昔をご紹介します。

土佐のカツオ節すなわち土佐節は、品質の良さで知られていました。文政五年（一八二二）の『諸国鯉節番付表』には、清水節、宇佐節、福島節、御豊瀬節、井ノ尻節等々、土佐の十七ヶ所のカツオ節が上位に名前を連ねています。黒潮にのって回遊するカツオは春先に土佐沖を通る頃が、カツオ節にす

るのに最適だといわれます。そうした素材の良さを活かす職人の技が、土佐節の優秀さを支えてきたのです。

明治二二年の『鯉漁業及製造方取調控』には、当時のカツオ節造りの方法や道具の図が記録されています。

また、巻頭で紹介した小松益喜氏は、明治末から昭和初期にかけてカツオ節をつくっていましたが、益喜氏のカツオ節造りのノートや道具、写真には、その頃の職人の研鑽の跡が刻まれています。益喜氏のお嬢さんの小松澄子氏が保存されていたそれらの資料を今回の企画展で初公開します。（4頁に続く）



山西屋萬日記  
山崎忠男氏蔵



山城屋奉納箱提灯  
土佐清水市教育委員会蔵

(写真左)山城屋分家山西屋の日記。山城屋四代目当主武兵衛が実弟儀兵衛(儀助)に資産分けをした目録から始まっている。全体として証文の扣が多い。持船春日丸に関する記述もあり貴重。(写真右)山城屋五代目文次郎が奉納した祭礼用提灯。中浜天満宮に献納したものか。箱書きには文政九年の年紀と山城屋武兵衛の名も見える。



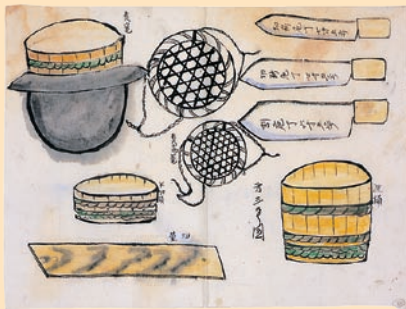
朱盃(浜田又四郎が土佐藩主・山内豊資より拝領)  
浜田亦重氏蔵

19歳にしてカツオ船の船頭に抜擢された又四郎は、身の丈が六尺もある大男で、その漁撈技術は天才と称された。彼の船は一日に四千尾近い水揚げを記録したこともあったという。やがて、その腕前は藩主にまで届き、袴・脇差とともにこの朱盃を拝領したのである。今でも「伝説の漁師」として地元の漁師たちから尊敬されている。



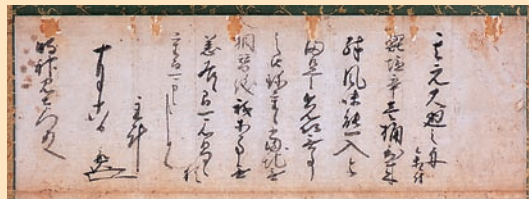
「鰹釣り図」由岐松琴画 土佐清水市立窪津小学校蔵

河田小龍の門人・島村小湾(幡多郡下田浦)の弟子の松琴が明治25年に書いたもので、カツオの群に近づき一本釣りで釣り上げる様子が描かれている。釣ったカツオを左脇に抱く人、大物を釣り上げるのに懸命な人など27名が乗船している。上空にはカツオの群に付く鳥が飛んでいる。船の中程には餌のイワシを入れた桶やイワシをとる網、そして餌を投げる人の姿も見える。



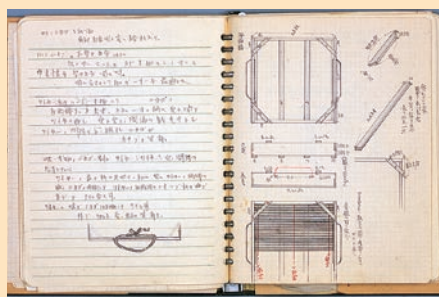
鰹漁業及製造方取調控 個人蔵

鰹漁の実況、釣竿や釣針、鰹節製造の納屋、庖丁や釜などが図示されている。詳細な説明文が付いており、それぞれの道具の使い方もよくわかる。現在の道具との相違がみえ、緻密な図もあればユーモラスな図もあり書き手による違いが楽しい。明治22年(1889)に安芸郡長から高知県庁に提出された文書が貼付され、安芸郡津呂村(現・室戸市)の罫紙や室戸村の付箋がみえることから、県下各地、おそらくは県東部の漁村からの提出物と考えられている。



野中主計(兼山)書状 明神忠右衛門宛 明神慈郎氏蔵

長宗我部氏家臣、明神忠右衛門は山内氏入国後浪人となった。その後、二代藩主・山内忠義より白浜の開発を命ぜられ、同村の庄屋に取り立てられた。本史料は、土佐藩執政野中兼山へのご機嫌伺いのため、「鰹塩辛(盗漬)」を献上したことへの礼状。書面の中で兼山は「殊風味能一入令満足候」(ことに風味よくひとしお満足せしめ候)と絶賛している。



鰹節造りのノート 小松澄子氏蔵

須崎で鰹節納屋を運営していた小松益喜氏が綴ったもの。鰹節作りの技術が詰まっている。煮籠などの道具や納屋が寸法や仕様とともに記され、小松氏がより良い鰹節造りを目指していたこと、技術を後に伝えることをいかに大事に考えていたかが推し量られる。



かつお担ぎ童子 草流舎作

郷土玩具には伏見人形などを原型とするものや、土地独自の題材がある。本品は、言わばその折衷で、各地にみられる「鯛担ぎ」の鯛を鰹に代えた土佐ならではの郷土玩具である。香泉人形の一品で、その復元に取り組む草流舎の作。押さえた色遣いが素朴で味わい深い。



安政年間(1854~1860)の鰹節 中土佐町蔵

日本で最も古い鰹の記述は『古事記』の「鰹魚」の表記だが、高知県で現存する最古の鰹節は本品だろう。或は日本最古かもしれない。

合わせて、土佐市宇佐で土佐節の伝統を守る工場やカツオ飯などの新製品に取り組み工場、宗田節に活路を開いた土佐清水市の工場の鰹節造りなどをご紹介しますので、新旧や地域による違いを比べてみてください。

## カツオをめぐる土佐の歴史

土佐人とカツオとの付き合いは古く、縄文時代の中村貝塚からカツオの骨が出土しています。

「カツオをめぐる土佐の歴史」のコーナーでは、土佐節が興隆を極めた藩政時代を中心に、カツオをめぐる土佐の歴史を辿ります。



尾を持ってカツオを三枚に卸す方法「土佐切」  
土佐市宇佐 竹内商店



昭和初期の鰹節造りの写真。  
当時の道具や服装がわかる。  
小松益喜氏撮影



カツオの生節や角煮、ふりかけや煎餅、ハランボの塩焼、宗田節のパック入り削り節など、さまざまなカツオの加工製品が並ぶ土産屋の店先 土佐清水市

カツオ節は「勝男武士」という漢字を当てることもあり、武士の贈答品として重宝されていました。そのため、土佐藩は幕府への献上品とするカツオ節を浦々から集め、カツオ漁やカツオ節製造に関してさまざまな優遇策と規制策をとっていました。

展示品には、土佐藩主が幕府にカツオ節を献上したことがわかる御内書や、白浜村庄屋の明神氏から贈られたカツオの塩辛が優品だと記された野中兼山書状などを予定しています。

一方、市井のカツオは、真覚寺住職静照が幕末の宇佐浦の暮らしを生き活きと描写した『真覚寺日記』にみられ

ます。すなわちカツオ漁やカツオの夜売りなど、カツオについて多くの記述があるのです。本展では、地震日記として著名なこの日記を「鰹日記」として読んでいきたいと思えます。

さらに、土佐へカツオ漁とカツオ節の新技術を伝えた紀州（現在の和歌山県）漁民の活躍を、墓などの石造物の写真などによってご紹介します。また、鼻前七浦（鼻とは足摺岬のこと）のひとつ、土佐清水市中浜で繁盛した浦方商人、山城屋（山崎家）の姿を、経営に関する古文書や当主の遺品などを通じて具体的に描き出します。

その他、『大日本物産図絵』や『日本山海名産図絵』など江戸時代に描かれた土佐のカツオ一本釣りやカツオ節製造の絵図を展示します。

## カツオ文化を味わう

本展をより深く、より楽しく味わっていただくために、体験コーナーやグッズとカツオ節製品のミニ販売コーナーを設ける他、さまざまな関連行事もご用意しています。

毎年多くの皆さんにご来館いただく五月三日の「歴史の日」、今年もカツオ展にちなんで、中土佐町水産商工課の皆さんによる「わら焼きタタキの実演と試食」を実施します。併せて、久礼漁協の元鰹の一本釣り漁師の皆さん伝

授の「一本釣り体験」も行います。

五月二四日は、毎月二四日の「鰹節の日」にちなんで、講演会「カツオをめぐる歴史と文化」と「食のこころ・カツオ料理編」を開催する、カツオ尽くしの一日です。講演会については、今回の企画展は中土佐町刊行の『土佐のカツオ漁業史』を参考にして多数の展示品を選んでいきますので、同書の執筆陣から広谷喜十郎氏・坂本正夫氏・林勇作氏に講師をお願いしています。あわせて中土佐町久礼漁業協同組合長の清岡稔男氏にご登壇いただき、漁の現場のお話をうかがいます。また、展示室トークやカツオ節削り体験も期間中にそれぞれ数回行います。

さらに、カツオの食文化の部分は、四月一九日にも「高知の食文化を味わう・食のこころ」でカツオ料理編を行う他、「こじゃんとうまいかつおラリー」でカツオグルメミュージアムを期間中開催します。これは、地産地消を推進する「おいしい風土こうちサポーター」の加盟店とタイアップして、加盟店と当館の相互割引やグッズのプレゼントなどを実施するものです。

カツオの漁獲が減少し、年間の水揚げ量を自主的に制限する動きも出てきた今春、本展と関連行事を、土佐のカツオ文化を考えるきっかけとしていただけましたら幸いです。

## 「なつかしのおもちゃ」展 大盛況！ ノスタルジアの世界

一月二日は、歴史館の平成二〇年ス

タートの日、そして企画展「なつかしのおもちゃー高橋俊和さんのコレクションショー」の初日となりました。この日は、ご来館のお客様にお抹茶のサービスをしました。日頃から茶道を嗜んでいるカルチャーサポーターの石元さんのご協力を得てお手前を披露、女性職員も和服姿でもてなしました。抹茶は初めてというお子様は神妙な表情でお抹茶の苦みに挑戦していました。同時に行った「くじ引き」とともにご好評いただきました。

歴史館でブリキの玩具を展示したの



1月2日 好評のお抹茶サービス



来館者と展示風景

は二回目となります。平成一三年に特

別展「土佐・二〇〇年―二一世紀へ伝える文化遺産―」の中において企画展示室で少し展示したことがあります。今回は、ブリキの玩具一〇点とともにぬり絵や着せ替え、駄玩具、駄菓子屋コーナーも復原し、昭和三〇―四〇年代の時代を示す資料として文具やホウロウの看板やキャラクター商品など約千点を展示いたしました。正月二日に六〇九人、三日に五二四人の方が寒い中ご来館くださいました。親子で来られ、「あ！こんなものあったね」「買えなかったね」と家族の歴史を思い出しながらお話しが弾んでいた方もいらっしゃいました。ほんの少しちよつと昔に帰って、大切な何かを感じていただけたのではないかと思えます。

(岡本・曾我)

## 歴民のパティオ⑤

### 高知の食文化を味わう「食の」

館長宅間 一之

食に関する関心がいまほど高まった時はないでしょう。長い歴史をもつ一家団欒の共食も、また一日三食の風もすれ、おふくろの味は袋の味となつて久しく、果ては「コンビニなければメシなし」となつてしまいました。

高知には豊かな食材があります。各地で生活の知恵を生かして、料理の達人たちが伝統的郷土料理や、新しい郷土料理の伝承や発信に懸命です。

平成一八年四月から、当館では高知県農業振興部地産地消課の御協力を得て、高知の食文化を味わう・食のころと銘うって、「地域の食」を歴史・文化の面から捉え、本県の食文化の「学びと味わい体験の場」「発信の拠点」の一つに位置づける事業に取り組みました。

月に一回、地域に根ざした料理が登場し、味わう前に、地域や料理の歴史や民俗学的な講話、生産者や従事者、その指導・普及員の、また時には料理の達人たちの話の聞ける時間も設けました。地域の人たちに育まれた郷土料理や行事食を学んで食べる。そして

語り合う。産地直売の出店の前でも賑やかな会話がはずみます。人は地域への関心を高め、地域もまた情報発信のチャンスの場ともなっています。

人気は高く、毎回定員を越えます。これからは館を出て、地域の風土や歴史にひたりながら、生産の場、生産者の顔にも触れる機会をと準備を進めています。

岡豊山で味わう郷土料理の達人たちの郷土の味、是非一度ご試食を。



郷土料理の試食

考古

地域考古学史の資料収集

各地域における考古学史に関係する資料収集は、博物館ではあまり積極的に行われていませんでした。しかし近年、四国内の博物館でも考古学史関係資料の収集を行うようになってきています。また、博物館の展示においても考古学史を取り上げている例があります。例えば、平成一四年度の巡回展「発掘された日本列島二〇〇二新発見考古速報展」の愛媛県歴史文化博物館における地域展「えひめ発掘物語」発見の歴史と近年の調査成果」においては、第一部「えひめ考古学事始」の中で「江戸時代の大発見」「明治時代の遺物の発見」「県内初の発掘調査」「遺跡・遺物の発見と新聞報道」などのテーマで、地域考古学史を取り上げています。徳島県立博物館では、平成五年度に世界的な人類学者であり考古学者である鳥居龍藏博士の展示「徳島の生んだ先覚者鳥居龍藏の見たアジア」を行っています。



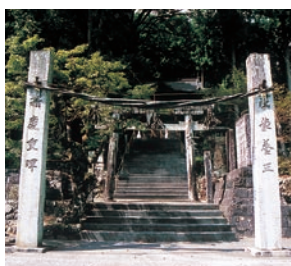
寺石正路資料

愛媛県歴史文化博物館には、西洋史の専門でありながら考古学者としても知られていた愛媛大学教授・故西田栄氏の写真資料が寄贈され、目録も刊行されています。当館でも郷土史家として明治・昭和にかけて活躍した寺石正路氏の資料が寄贈され、現在資料整理が継続されています。今後、行政発掘調査以前の考古学史関係の資料の寄贈が多くなると考えられます。そこに学史研究資料の保存と研究・活用という新たな課題が生まれてくるでしょう。(岡本)

歴史

伊予で祀られる土佐一宮の神

昨夏、史跡巡りの予備調査のため、六回ほど愛媛県城川町（西予市）方面を訪ねました。長宗我部元親と一時同盟関係にあり、後に滅ぼされた北ノ川氏の居城周辺を調査するのが主目的でしたが、ちよつと足を延ばして同町魚成に行つてビックリ。何と通称槌ヶ森の籠に土佐一宮の神を祀る一宮神社があることを知ったのです。同社の由緒には、「建治三年（一二七七）、土佐から天を翔けて東宇和郡の岡田森に籠もつた土佐一宮の尊像を、魚成の領主が槌ヶ森に神殿を建て産土神とした（要約）」と記されています。この魚成氏の子孫は、戦国期に北ノ川氏と共に一旦土佐方となりますが、元々西園寺氏の有力武将でもあったため、土佐と決別します。裏切り者の討伐という大義名分のもと、長宗我部勢の攻撃は熾烈を極めたようで、魚成のいたる所で戦にまつわる悲惨な話を聞きました。「この辺は何もかも長宗我部に焼かれた」と呟く古老の言葉は胸に突き刺さりましたが、この一宮神社は戦禍を免れています。元親の家臣団には、土佐一宮の神職出身の重臣がおり、その影響もあったのかもしれない。土佐ではほとんど知られていない伊予の一宮神社。いつかまた訪ねてみたいと思います。(野本)



魚成・一宮神社



「しいがん」土佐兵に討たれた魚成配下の騎馬武者を祀る

民俗

炭焼き五郎の嫁婿とり

今から二〇年ほど前、まだ学生だった頃、旧物部村の正月行事を調査したことがありました。いざなぎ流太夫の小松豊孝さんのご案内で別役の小原繁利・盛太郎さんのお宅を訪ねました。床の間には、ずらり十二の仮面が並べられていました。日本の仮面とは思えない土俗的な顔立ちの仮面で、能面などの上品なイメージをツルリとはいだらこのような素朴な荒々しいデザインが現れるのかと思つたり、日本文化の隠された部分を見てしまったかのような気持ちが出て、大変驚いたことを今でも覚えています。

この十二の仮面は神様として祭られており、いざなぎ流の大祭では十二人の役者が面をつけ、「炭焼き五郎の嫁婿とり」を演じるとのことでした。「嫁婿とり」の内容は、独身の炭焼きである五郎に嫁をとるのに、仲人役が何度も娘の家に通い、とうとう承知させ、二人が結婚するという内容で、即興で面白おかしく演じるのだそうです。



炭焼き五郎の嫁婿とり

神である面が演じる不思議な劇。何とかしてこの劇を見てみたいと思つていましたが、なかなかその機会はありませんでした。そして今年の一、二、とうとう小原家の大祭でその場面を見ることができました。二〇年間の思いがやっとなかない、感慨無量でした。(梅野)

## 岡豊山フォトコンテスト協賛企画

天然写真家・前田博史写真博

# 桜博達(さくら・はくら)はくら(さくら)開花!

一昨年の三月九日から四月九日まで、  
休息室ミニ・ギャラリーの開設記念に、  
写真家・前田博史さんの桜の写真を  
「さくら・はくら(桜博達)」のタイト  
ルで展示し、大変好評を得ました。

今年はいよいよ企画展示室へ場所を  
移し、二〇〇八年版の「桜博達」を、

平成二〇年三月二〇日(祝・木)〜三一

日(月)に開催します。高知県内から県境  
にかけて前田さんが撮り溜めた桜達か  
ら桜景色の写真を、大きく仰ぎ見るよ  
うに、また自ら風景の中を散策するよ  
うに回廊式に展示します。前田さんが  
恋いこがれカメラでとらえ続けてきた  
桜たちの表情豊かな姿が圧巻で  
す。



また、前回の「岡豊風日」  
六二号でご案内したとおり、今  
年も「岡豊山フォトコンテスト」  
を三月一五日から四月一三日ま  
で募集中です。岡豊山歴史公園  
で撮影した写真や公園を外から  
撮った写真を、四つ切かワイド  
四つ、A4判でご提出下さい。  
前田氏を中心に審査し、最優秀  
一名、優秀二名を選び、五月三  
日に表彰式を行います。作品は  
全て、五月三日(祝・土)から六  
月二九日(日)まで当館一階フリー  
スペースおよびギャラリーコー  
ナーにおいて展示いたします。  
ふるってご参加ください。



**民俗芸能ネットワーク設立**  
歴民は事務局に

高知県民俗芸能ネットワーク協議会  
の設立総会が、二月二三日(土)当館A V  
ホールで行われました。これは県内の  
民俗芸能の保存団体が情報共有や協  
議を通して芸能の保存や普及を目指す  
もので、まずは、香南市土佐絵金歌舞  
伎、津野町高野農村歌舞伎、いの町八  
代青年団、高知市西畑(さいばた)人形の四団体が  
集い、当館が事務局を務めることにな  
りました。三月二日を皮切りに、鳴り  
物、踊り、演技、化粧の伝承講座を行  
います。



**地域文化デジタルアーカイブ講座**  
巡回展開催

一般参加者と実施した土佐市蓮池西  
宮八幡宮の秋祭りの調査成果を、高知  
工业大学(一月一五日〜二九日)と地  
元の土佐市中央公民館(三月一日〜九  
日)で展示しました。

三月四日には、西宮八幡宮近くの土  
佐市蓮池コミュニティセンターで、成  
果発表会を行いました。受講生の岡林  
光穂さんが祭りの様子をパワーポイン  
トや動画で紹介、同じく受講された高  
崎敬雄さんからコメントをいただきました。

## 新・歴民サークルスタート

現在の歴民サークルの会員特典を充実させた【新・れきみんサークル】が平成20年4月1日よりスタートします。

会員限定のイベント(史跡めぐり・博物館めぐりツアーなど)の開催や会員と同伴者2名の観覧料割引、そして、提携ショップでの割引などなど新しいサービスも充実させます。

※現れきみんサークルは平成20年3月31日をもって全サービスを終了させていただきます。

- 会費:年会費2,000円
- 会員期間:会員証発行日より1年間

### 特典

- 当館自主企画の企画展・講演会へのフリーパス
- 65才以上の会員の方には入会時に当館の招待券を2枚進呈
- 同伴者2名の観覧料割引
- 会員限定イベントの開催 但し、費用はバス代など実費負担になります
- 歴民館広報誌「岡豊風日」「年報」の送付や各種イベントのお知らせ
- 提携ショップやミュージアムショップでの割引
- 岡豊山歴史公園内の民家の無料利用(但し、営利活動を除く)

下記の郵便局口座に振込用紙通信欄へ必要事項※1を記入し、お振り込みいただくか、当館受付で入会申込書にてご入会下さい。

記 01690-8-58321

口座名義人:高知県立歴史民俗資料館  
れきみんサークル

※1 氏名・住所・電話番号・生年月日・年齢

### 5月3日は「歴民の日」

観覧料無料。クイズ大会、重要資料公開、鯉展関連イベント(右記)を行います。

### 臨時休館

展示資料整理のため下記の期間休館します。  
6月16日(月)～18日(水)

岡豊風日(おこうふうじつ) 第63号  
平成二〇年三月二〇日  
編集・発行 高知県立歴史民俗資料館  
〒783-0044 南国市岡豊町八幡1099-1  
TEL 0888(8622211)  
TEL 0888(8622110)  
FAX 0888(8622110)  
開館時間 午前9時～午後5時  
休館日 年末年始(12月27日～1月1日)、  
臨時休館あり  
観覧料 通常期(常設展)大人(18才以上) 450円・団体(20人以上) 360円  
無料・高校生以下、高知県及び高知市長  
寿手帳所持者、療育手帳・身体障  
害者手帳・障害者手帳・戦傷病者  
手帳・被爆者健康手帳所持者とその  
介護者(一名)  
印刷 共和印刷株式会社

http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~rekimin/  
eメール: rekimin@kochi-bunkazaidan.or.jp

## 平成20年4月～7月の催し

### 『鯉 -カツオと土佐人-』

平成20年4月12日(土)～6月8日(日)  
観覧料 大人 500円



黒潮のついでに回遊するカツオは、土佐沖を通るころがもっともカツオ節に適していると言われ、江戸時代後期の諸国鯉節番付では、土佐のカツオ節が上位を占めるほどになっていました。展示では、カツオと土佐人の付き合いの歴史を紐解きながら、カツオ漁やカツオ節の技の今昔を紹介します。

**講演会** 5月24日(土) 13:30～16:00

「カツオをめぐる歴史と文化」 **要予約** 先着80名

広谷喜十郎氏 坂本正夫氏 清岡稔男氏 林勇作氏

ワクワクワーク

「わら焼きタタキの実演と試食」中土佐町水産商工課

「鯉の一本釣り体験」久礼漁協 元一本釣り漁師

5月3日(祝・土) 10:00～カツオが無くなるまで

「土佐民話の家⑨」市原麟一郎氏

5月3日(祝・土) 14:00～15:00

「鯉節を削ろう! ミニ解説付き」

4月26日(土)、5月31日(土) 13:00～14:00

※「民話」と「鯉節」は電話かEメールでお申し込み下さい(先着順)。定員30名。

**展示室トーク** 4月19日(土)・5月10日(土)・17日(土)

いずれも土曜日13:00～14:00 **申込不要** 観覧料要  
講師:担当学芸員

講座&食事会

### 高知の食文化を味わう～食のこころ～

毎月、食文化や各地域の歴史に関する講座と郷土料理の食事会を開催します。

黒潮町佐賀の鯉料理と文化講座

4月19日(土) 11:00～

中土佐町久礼の鯉料理と講演会

5月24日(土) 12:00～

詳細はお問い合わせ下さい **申込要** 実費有 先着順

6月以降はお問い合わせ下さい

鯉展同時開催

・ごじゃんとうまいかつおラリー

期間中毎日

・カツオグルメミュージアム

各店定休日は

カツオ料理自慢の店と歴民の相互割引鯉カードを集めてグッズをもらおう。詳しくはパンフレットをご覧ください。

**テーマ展示(3階総合展示室)** 5月2日(金)～6月30日(月)

「崎山比佐衛とブラジル移民① -ブラジル移民100周年記念-」

展示

「岡豊山桜と四季」 5月3日(土)～6月29日(日)

平成20年度「岡豊山フォトコンテスト」の応募作品を1階ミニギャラリー及びフリースペースに展示します。〈ミニギャラリー及びフリースペースは観覧料無料〉

次回  
企画展  
予告

「土佐発掘物語Ⅱ」

平成20年7月18日(金)～8月31日(日)